



芦田宏治後援会だより 明日のために

●第8号

●発行日：令和4年5月2日

●発行・編集：芦田宏治後援会

〒731-0501 安芸高田市吉田町吉田 427-4



昨年夏、安芸高田市を襲った記録的豪雨は、市内の河川、特に多治比川流域での増水、氾濫などにより多くの被害をもたらしました。しかし徐々にではありますが、工事のつち音が響き確実に復興に向かっていることがわかります。

一方、新型コロナウイルス感染症は依然として収束の気配が見えず、感染数は増減を繰り返し、未だ先を見通すことができません。さまざまな社会活動に影を落とし、市民を対象とした行事などの延期、中止、自粛などが続いています。一日でも早いかつての日常が戻ることを願わずにはおれません。

感染症や災害はいつ起こるともしれず、厳しい財政の中で安心・安全な市民生活をどのように担保するか、事前の対策などどのように取り組むか、議会の役割は今以上に重要になるのではないのでしょうか。

二期目の芦田議員には市民の皆様の身近な課題などについて、地道に声をくみ取り、臆することなく、かつ謙虚な姿勢で誠心誠意取り組んでもらいたいと考えています。必ずや成果を出してくれるものと確信しています。

引き続き皆さまのご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

芦田宏治後援会
会長 福丸 清治

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの日常生活をはじめさまざまな社会活動に大きな影響を与えています。そのような状況のなかで地域の行事なども大きな影響を受けていますが、議会においても例年実施している議員と市民による各町単位の地域懇談会が昨年からは3回にわたり中止となり、一昨年12月の市議会改選以来一度も開催できていない状況となっています。

ワクチン接種も進み、ウィルス感染症拡大の速度が緩やかになると予測されていましたが、新変異株「オミクロン株」により、1月には広島県でも「まん延防止等重点措置」が適用されました。安芸高田市においても1月から3月までの3か月間で647例の感染が確認されており、4月に入ってもほぼ連日のように感染者が報告されています。ワクチン接種の促進と健康観察の体制強化など、引き続き積極的かつ具体的な実効ある対策を進めていく必要があると考えています。

コロナ禍に翻弄された一年でしたが、多治比川流域をはじめ市内各地で大きな被害をもたらした昨年8月の豪雨災害とも相まって、安芸高田市にとっては非常に厳しい一年となりました。

豪雨災害については4年度にはいり、本格的な復旧工事が行われ、復興への取組みが進められています。雨季を前に一日でも早い工事の完成がのぞまれます。

取り組むべき課題が山積し、財政も非常に厳しい状況ですが、行政と議会がしっかり連携し、市民の負託に応えるべく誠意をもって全力で取り組んでいかなければならないと考えています。

芦田 宏治



復旧工事が進む多治比川（吉田地区）



復旧工事が進む多治比川（丹比地区）